研究の窓

文化や立場でも変わる「コミュニケーション」の使い方。

ビジネス学部の5領域中、福本先生はビジネスコミュニケーションを担当。国際化するビジネスシーンに必要な異文化コミュニケーションが専門で、通算7年間のアメリカ留学経験を生かし、英語、ディベート、英語プレゼンテーションも教えています。留学中、原子爆弾型の原爆ピアスの発売に衝撃を受け、日米の国民の意識の相違を研究。今後は、「戦争は立場によって加害者、被害者のどちらにもなり得るが、それぞれの立場でどうコミュニケーションの使い方が変わるのかを比較研究したい。そこからアジアとの共生を可能にするコミュニケーションのパターンを見い出せれば」と抱負を話していただきました。

ビジネス学部講師
福本明子

【学歴・職歴】

1993年３月　南山大学外国語学部英米科卒業
1993年４月　藤谷特許事務所勤務。国際特許出願を担当（～1997年）
1999年５月　ニューメキシコ大学コミュニケーション・ジャーナリズム学部修士課程修了
2003年12月　ニューメキシコ大学コミュニケーション・ジャーナリズム学部博士課程修了
2004年４月　愛知淑徳大学ビジネス学部講師

【福本先生の主要著作・論文リスト】
○共著　□論文

○「Cross-Cultural and Intercultural Work Group Communication Between Japanese and U.S. Americans.」Small group communication : Theory and practice(8th ed).出版社:Brown and Benchmark　2003
□「Communicating across Time and Experiences : How did the Survivors of the Great Hanshin Earthquake Convey Their Messages by Negotiating Cultural Norms?」日本コミュニケーション学会ヒューマン・コミュニケーション研究31号　2003
□「原爆ピアスを巡る集団の記憶の検証―集団の記憶のリテラシーを求めて―」日本コミュニケーション学会ヒューマン・コミュニケーション研究32号　2004

大学の学部時代にコミュニケーション・異文化コミュニケーションを学んだことがきっかけで、その分野への興味がつのり今日に至っています。コミュニケーションと聞いて連想することは何？と授業で聞くと「お互いを理解する」や「言葉のやり取り」など意思疎通としての意見が多いですが、喧嘩、誤解や、また聞きも立派なコミュニケーション行動です。送り手・聞き手の意味の解釈、言語・非言語メッセージ、状況、時間経過など多くの要素が絡む意味形成のプロセスがコミュニケーションです。更に、コミュニケーション学の中にも異文化、小集団、組織、メディアなど多くの分野があり、交換留学でウィスコンシン州立大学―マディソン校で勉強した時は、アメリカ合衆国ではこれだけ多様なコミュニケーション学の分野や関連授業があるのかと驚いたものです。

1997-2003年には、ニューメキシコ州立大学のコミュニケーション・ジャーナリズム学部でコミュニケーション・異文化コミュニケーションについて学びました。渡米前は、異文化コミュニケーションは、国・人種・性別・宗教などの文化がコミュニケーション・スタイルなどのパターンに影響を及ぼし、異なりが発生すると理解していたのですが、渡米後は、他のアプローチも学びました。コミュニケーションを通じて文化が形成されるので、その文化内のコミュニケーションのルールや意味解釈を調べるアプローチがあったり、社会のマジョリティーやマイノリティーのように「力」の作用で判断基準などが不平等に固定されるので、その作用に対して各自が自分のコミュニケーションに意識的であり社会変化をもたらすことを目指すアプローチがあったり、と「異文化コミュニケーション」といっても幅があるのだと学びました。

現在はビジネス学部での担当なので、仕事の状況と関連の高い対人・小集団・組織・メディアコミュニケーションを取上げながら、国内外の異文化コミュニケーションについて学生達と一緒に学んでいます。